

令和6年度 第1回 市立伊丹病院・公立学校共済組合近畿中央病院統合委員会 議事録

開催日時	令和6年11月22日(金) 午後2時～午後3時5分
開催場所	市立伊丹病院 講堂
出席者	<p>(1) 委員 (医療関係者) 常岡 豊 (伊丹市医師会) 吉村 史郎 (伊丹市医師会) (関連大学) 貴島 晴彦 (大阪大学大学院医学系研究科) (公立学校共済組合) 甲村 英二 (近畿中央病院) 上道 知之 (近畿中央病院) 清水 信也 (公立学校共済組合本部) (伊丹市) 中田 精三 (市立伊丹病院) 筒井 秀作 (市立伊丹病院)</p> <p>(以上 8名) (順不同)</p>
欠席者	<p>(伊丹市) 坂本 孝二 (伊丹市)</p>
議事次第	<p>1. 開会 2. 議事 (1) 統合新病院整備工事の進捗状況について (2) 運用検討WG・情報システムWGの検討状況について (3) 回復期病院誘致に係る「アンケート調査」の結果(概要)報告について 3. 閉会</p>

1. 開会

2. 議事

委員長

それでは、事務局より議事進行をお預かりしましたので、お手元に配付されております「次第」に従いまして、私の方で、議事を進めさせていただきます。

前回の開催は、昨年11月29日ということで、ちょうど一年を経過したところでございます。

統合新病院整備事業について、7月からは、立体駐車場及び平面駐車場の仮運用、職員宿舎・保育所棟にて、保育所の本運用及び医局の仮運用が開始されております。8月からは、整備工事が完了した東棟において、外来診療、受付、各種検査等の仮運用が開始されております。

現在は、基幹病院となる西棟の整備工事にも着工しており、統合新病院の開院に向け、着々と整備工事が進んでいます。

委員各位におかれましては、両病院の統合の実現に向けて、忌憚のないご意見をお願いするとともに、会議の円滑な進行に、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

3. 議題1 統合新病院整備工事の進捗状況について

委員長

それでは、議題に入らせていただきます。

本日の委員会では、

「統合新病院整備工事の進捗状況」、

「運用検討WG・情報システムWGの検討状況」、

「回復期病院誘致に係る「アンケート調査」の結果（概要）報告」

について、ご報告いただくこととなっております。

それでは、議題（1）「統合新病院整備工事の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

※【資料1】に基づき説明

委員長

事務局より説明がありましたが、ただいまの説明について、何かご意見、ご質問等がございますでしょうか。

委員

現在のところ、工事そのものは順調に進捗しているとのこと、安堵しているところですが、先ほどの説明の中で、物価高騰などによるスライド条項の適用により工事費が増額することについて、9月議会で、補正予算が認められたとのことですが、今後もさらにスライド条項を適用し工事費を増額する可能性はあるのでしょうか。

また、今後、さらに今回の補正以降、スライド条項適用による工事費が増

額した場合、財源の確保は大丈夫でしょうか。

事務局

スライド条項の適用につきましては、制度上、回数の制限はありません。

しかし、スライド条項が適用される対象工事の確認時期は、賃金水準の変更がなされた時とあり、通常、国土交通省から通知される労務費の改定は毎年2月にございますので、毎年春頃に工事受注者からスライド条項適用の申出の可能性があるものと想定しています。

次に、今後、さらに工事費が増額した場合の財源の確保についてですが、整備事業を進める中で、継続的な建設費の高騰に加え、土壌汚染や地中障害物の対応など、工事費に影響を与える状況が発生した場合におきましては、まずは工事監理者及び工事受注者と最も効率的かつ合理的な対応策について検討するとともに、財政部局などの関係部局と情報共有を図り、対応について協議いたします。

その上で更なる財源の確保が必要となる場合につきましては、議会においてご説明の上、ご審議いただく予定としております。

委員長

財源確保の件で、事務局よりご説明いただきましたが、本日欠席しておられます、坂本委員から、財源確保について、事前にご意見をいただいているとのことですので、事務局からお願いできますか。

事務局

本市としましても、将来にわたり安定的かつ持続的な地域医療提供体制を構築するため、統合新病院を整備することにより、市内で不足している高度医療を提供し、入院医療に対する市民の不安が生じることがないように、必要とされる病床機能を確保することが必要であることから、その財源については、国や県からの補助金などの財政支援を最大限活用しつつ、スライド条項適用により、現時点で最大限工事費が増嵩した場合に必要と想定される約66億円の財源につきましては、すでに確保しておりますので、よろしく願いいたします。

委員長

ありがとうございます。66億円の財源についても確保できていると確認できました。

建設工事費の上昇が続いているとのことで、今後の事業費の動向が、非常に気になるところでありますので、引き続き市場動向には十分注視していただきたいと思います。

委員

現在、西棟の整備工事に着手しているとのことですが、現在、建物が建っている場所も含まれていると思いますが、その建物を解体してから大規模な土壌汚染調査を行われると思います。

その状況や土壌汚染対策工事を反映した全体工期や工事費の影響については今後どのように説明されていきますか。

事務局

西棟の整備範囲におきましては、土壌汚染調査の表層調査を実施しており、

当初想定していた以上の範囲で汚染が確認されております。現在、深度方向の土壌汚染調査を実施しているところですが、掘削面積も広く深度も深いことから、土壌汚染の状況によっては、大規模な対策工事が必要となる可能性があります。

土壌汚染深度調査の結果に基づき、工事監理者、及び、工事受注者と、最も合理的かつ工事期間が最短となる対応について検討し、内部で調整を行ったうえで、今後、「伊丹市議会 市立伊丹病院検討特別委員会」を開催していただき、土壌汚染対策が与える工期や事業費などの影響について説明する予定です。

委員長 物価や労務費の高騰などにより、工事費が増額している状況とのことですが、引き続き、工事の効率化や合理化に努めていただくとともに、国や県の補助金や有利な財源などを活用し、極力、市民負担に影響がないように取り組んで下さい。

4. 議題2 運用検討WG・情報システムWGの検討状況について

委員長 次に、議題（2）「運用検討WG・情報システムWGの検討状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局 ※【資料2】に基づき説明

委員長 事務局より説明がありましたが、ただいまの説明について、何かご意見等がございますでしょうか。

委員 報告にありました、運用検討ワーキングにおいて様々な検討がなされていると思いますが、今後は、さらにどのような議論が展開されていくのでしょうか。

事務局 運用検討ワーキングとして、様々な事項を「外来」「病棟」「手術」「救急」の4つの大きなテーマにまとめ、検討を進めてまいりました。高度急性期医療に対応し、新たな情報システムとも連携した運用について、方針決定した事項と併せ、継続して検討が必要な事項がございます。

今後の議論の展開として、代表的なものは、「外来」について来院前の問診票記入方法のほか、AI問診の導入など、「病棟」については、予約センターでの業務内容・入退院支援窓口との役割整理など、「手術」については、緊急手術の様々な運用や手術室コントロールステーションの運用など、「救急」については、ハートコール・ブレインコールの運用や、感染症患者の外来対応などについて、ワーキングにおいて、引き続き検討を行ってまいります。

委員長 ありがとうございます。

委員 私からは、情報ワーキングについてお聞きします。

新たに導入を予定している「全体最適化」を目指した情報システムについ

でももう少し具体的に教えて頂けますか。

事務局

全体最適化を目指した統合新病院開院時の情報システムの実現ポイントとして、全体最適化を図るシステム群である「キーソリューション」の一つである、外来における患者・業務の状況が一覧で表示可能な「外来モニタリング」を例にご説明いたします。

「外来モニタリング」は診察や検査の混雑状況把握・最適なルート案内が可能となるよう、患者の診療スケジュールや予定の流れに沿った進捗を各部門において一目で確認できるようにすると共に、患者の院内における位置情報の把握や、各診察室や検査・処置等の進捗状況など、外来全体の患者・業務の流れ（フロー）の把握ができるシステムとなっております。

このシステムを用いることで、従来のシステムにおいては、様々なシステムを個別に起動して確認することや、状況を把握するため、担当者に直接電話での問い合わせが必要であったものが、画面上に必要な情報を一覧で表示することが可能となります。一覧画面を用いることで、職員が診察、各検査の混雑状況を把握し、患者にとって最適なルートを案内することで、患者の待ち時間の短縮及び外来業務の平準化につながると考えております。

委員

VR、AIといった新しい技術も医療分野での活用が始まっており、画像診断やリスク予測など、医療の質の向上や医療者の負担軽減に役立つものと考えていますが、進化のスピードが非常に速いことから、現段階で最新だと思っても新病院の開院時点では既に何世代も前の製品となっている可能性があります。

開院時点で最新の製品を導入したいと考えた場合、今回導入する情報システムは対応が可能なのでしょうか。

さらに、病院の開院はスタートであり、それから先5年10年20年と考えていく必要があります。将来に向けても長期的に対応が可能でしょうか。

事務局

委員ご指摘のとおり、VR、AIといった技術につきましては、進化のスピードが非常に速いため、従来の情報システムにおける設計・考え方では対応が難しいと考えております。

加速的に進化するVR、AIなど新技術に対応するためには、今回構築を進めております「データ利活用プラットフォーム」を用い、様々な部門システムから出力されるデータを統合・集約し、蓄積されたデータが、新病院の開院時に導入する最新の製品に対しても、容易に活用できるよう準備しておくことが重要であると考えております。

汎用性の高いシステム整備を進めることで、新しい技術に対応した製品にも対応することができるなど、将来にわたり、技術の変化に強いシステム構築が可能であると考えております。

委員 「データ利活用プラットフォーム」を用いてVR、AIといった新技術の進化に対応することは理解できましたが、最新の医療におけるデータ利活用は、「病院内」のみの利用にとどまらず、病院間の連携や、クラウドとのデータ連携、患者とのデータ連携のように「病院外」との通信がどうしても避けられないものが出てきています。

サイバー攻撃などが大きな問題となっている今、利便性と情報セキュリティを両立させる必要がありますが、情報セキュリティ対策はどのようにしていくつもりでしょうか。

事務局 まずは、不要な外部通信は行わないことが基本であるとは考えております。従来のシステムにおいて、「病院外」との通信につきましては、部門ごとに外部に接続する通信機器を導入し、個別にセキュリティ対策を実施し、運用を行っておりました。

サイバー攻撃は、セキュリティ対策の一番弱いところが狙われますので、外部に接続する部門やルールが複数存在する、従来の方法では攻撃を受けるリスクが高くなります。

新病院開院時に新たに導入する情報システムでは、データへのアクセス制限や匿名化、暗号化など、「データ利活用プラットフォーム」を用いた、情報漏洩リスクの低減対策に加え、外部と接続する通信機器を集約し、発生する通信を一元的に把握、管理することにより、サイバー攻撃を受けるリスクを低減させるなど、高いレベルの情報セキュリティ対策を実施する予定です。

また、攻撃を受けた際に復旧のかなめとなるバックアップについて、各システム間のバックアップタイミングや内容を調整し、早期復旧を前提としたバックアップポリシーの検討を行います。

ランサムウェアへの対応としては、取得したバックアップデータが改変なく保存されていることも重要な要素となりますのでオフラインバックアップを含めた対策も進めます。

委員 開院に向けた行程表には、タスクシフトを踏まえた人員配置計画の策定とありますが、近畿中央病院の医師や看護師、その他コメディカルなど、全ての職員については、希望すれば、全員、統合新病院で働くことができるのでしょうか。

もう1点、運用検討、情報システム検討細かく多岐に渡る検討が行われておりますが、院内だけではなく、地域の医療機関との密接で効率的な連携、情報共有ができるようなシステムを構築していただき、クリニックから新病院まで患者さんが切れ目なく安心して診療を受けられるようなことも考慮いただき、両病院の利用者さん、特に近畿中央病院利用者さんにもご安心いただけるようなシステムの構築をよろしくお願ひしたいと思います。

委員 統合にあたり、引き続き、両病院の職員がやりがいをもって働いていただけるよう、現在、必要とされる措置や処遇等について検討しているところですが、近畿中央病院で働いている職員につきましては、ご本人が希望されれば、基本的に統合新病院で働いていただくことを想定しております。

地域医療機関等との効率的な連携、情報共有が可能なシステムの構築による切れ目のない診療サービスの提供についても、考慮させていただければと思います。

委員長 ご説明いただきましたとおり、現在、各WGでは、統合新病院の運用開始に向け、活発に調整を進めておられる状況であると思います。

開院までの限られた日程の中、両病院の職員が様々な調整事項を検討するにあたりましては、大変な労力を要するものとお察しいたしますが、今後もお互いに協力し、調整を進めていただきますようお願いいたします。

医療安全、働き方改革、マイナンバーカードなどの対応についても、良い新病院の開院に向けて、対応をお願いしたいと思います。

5. 議題3 回復期病院誘致に係る「アンケート調査」の結果（概要）報告について

委員長 次に、議題（3）「回復期病院誘致に係る「アンケート調査」の結果（概要）報告について」事務局から説明をお願いします。

事務局 ※【資料3】に基づき説明

委員長 事務局より説明がありましたが、ただいまの説明について、何かご意見等がございますでしょうか。

アンケートの結果、阪神医療圏域の11の医療機関から、「興味・関心がある」との回答があったとのことですが、いかがでしょうか。

委員 跡地誘致に興味・関心があると回答した医療機関のうち、4医療機関については、近畿中央病院の建築物の使用について検討する、との回答でしたが、今後、どのように進められる予定でしょうか。

来年2月に予定されている、第2回目の住民説明会でも、跡地誘致に関する報告は予定されていますか。報告される場合、どのような内容ですか。

事務局 建築物の使用について検討すると回答のあった医療機関にヒアリングをしました結果、具体的に検討を進めるためには、建築物の平面図や設備図面、耐震化の状況や設備の修繕歴などの資料が必要とのご意見がありました。

今後、公立学校共済組合さんと、提供できる資料の調整、提供方法、提供のタイミング、取り扱い方法などについて調整を行う予定としております。

来年2月に予定しております、住民説明会におきましては、本日、ご報告いたしましたものと同じ内容について説明する予定としております。

委員 今回、跡地に興味関心があると回答された医療機関において、移転・新設

を想定すると回答した医療機関では、回復期以外の病床の予定もありましたか。

また、外来診療機能を設置する予定と回答した医療機関があったとのことですが、具体的な診療科について、教えてもらえますか。

事務局 新設につきましては、回復期病床だけでしたが、移転につきましては、急性期、回復期、慢性期病床の回答がありました。

外来診療機能につきまして、多かった診療科は、内科、整形外科、リハビリテーション科でしたが、その他、少数ですが、循環器内科、皮膚科、形成外科などがありました。

委員長 アンケートにつきましては、公立学校共済組合と伊丹市が合同で実施したとのことですが、公立学校共済組合から、今後の跡地誘致の取り組みについて、お願いできますか。

委員 公立学校共済組合としましては、近畿中央病院の跡地活用について、第1回住民説明会で説明いたしました「想定スケジュール案」を基に、まずは、跡地誘致に興味・関心があると回答していただいた医療機関が、近畿中央病院の建築物の使用について具体的に検討を進めることができるよう、現在、資料の内容や提供方法などについて、伊丹市さんと調整しております。

また、医療機関へのアンケート結果を参考に、売却条件の整理を進め、覚書の趣旨にのっとり、回復期機能を有する民間医療機関を誘致の早期実現に向けて、引き続き、伊丹市さんや医師会さんなど関係機関と情報共有、連携を図りながら進めていきたいと考えております。

また、来年2月に予定しております、第2回目の住民説明会では、アンケート結果とともに、今後の取り組み内容についてもご説明させていただく予定としております。

委員 誘致する回復期の機能を有する民間医療機関につきましては、統合新病院の後送先としても必要なことや、住民説明会においても、「新しい病院が開院するまでの期間を短くしてもらいたい」との声が複数あったことから、公立学校共済組合さんにおかれましては、早期に売却条件の整理を進め、入札を実施していただきますよう、あらためてお願いいたします。

委員 私どもも、伊丹市域に必要とされる回復期機能を有する民間医療機関誘致の重要性や、住民からのご要望についても、しっかりと認識しているところです。

先ほどのアンケート結果の話にもありましたとおり、跡地売却については、建物使用の可否など整理すべき課題は多くありますが、伊丹市さんとも一層の連携強化に努め、公立学校共済組合として、早期の売却実現に向けて取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

委員長 回復期病院誘致に向けた取り組みは、公立学校共済組合と伊丹市が連携して、計画的に進めておられていると思います。

しかし、特に、近畿中央病院の近隣にお住まいの皆さまは、跡地活用に関する進捗については、非常に気にされているところかと思われます。

来年2月に予定されている第2回目の住民説明会につきましては、住民との対話の貴重な機会であると思いますので、現在の状況や、今後の取り組みについても、丁寧にご説明いただきますよう、よろしくお願いいたします。

委員長 以上をもちまして、本日予定しておりました議事はすべて終了いたしました。進行を事務局にお返しさせていただきます。委員の皆さま、どうもありがとうございました。

6. 閉会